

J R 総連通信

レールウェイはヒューマンウェイ

参議院議員 田城 郁



2012年3月29日 No.1042

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

『週刊現代』裁判で最高裁（松崎 明／JR総連・JR東労組・梁次邦夫）

賠償確定！

330万円・440万円

松崎明氏と、JR総連・JR東労組・美世志会・梁次邦夫氏の3者が『週刊現代』と西岡研介記者を相手取り名誉毀損での損害賠償を求めた2件の裁判で、最高裁第三小法廷は3月27日、いずれも上告を棄却した。このため講談社と西岡記者から松崎氏へ330万円と、JR総連、JR東労組にそれぞれ220万円ずつの支払いを命じた判決が、いずれも確定した。

2006年7月から24回・約半年間にわたり『週刊現代』に「テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実」という記事が連載された。毎号、松崎さんの写真が入れられ、JR総連・JR東労組への革マルキャンペーンとして繰り返された。連載は、業務上横領事件のでっち上げなど、権力、悪宣伝をおこなうマスコミやJR連合、嶋田一味らによる重包囲網の下、JR総連壊滅攻撃の一環だった。

しかし、JR総連は弾圧に怯むことなく、『週刊現代』訴訟など闘いを進めてきた。43名の原告団で2008年9月6日に起こした「スパイ糾弾訴訟」は、虚偽を記した『リスト』を配布した嶋田一味ら9名を相手取り、1億円の損害賠償を起した。その嶋田らは西岡記者にも接触し、虚偽情報を提供。『週刊現代』に掲載させている。連載9回目には福原福太郎著『小説労働組合』を取り上げ、11回目には嶋田一味らが登場。「松崎明よ、あなたは逮捕されて当然だ」、15回目には「私たちは見た、松崎明の横領現場」などの見出しで書かれている。まさに一味らは、権力の介入の手引きをしたのだ。

JR総連はいま、「スパイ糾弾訴訟」の原告団を支え、さらに反弾圧の闘いを進めている。

東京地裁判決後の記者会見で、松崎明氏のコメント（2009年10月26日）



社会をいたずらに混乱させるようなテロなどに反対の立場でこの数十年間、自ら主張し、行動してきた。労働組合が戦前の「産業報国会」に落とし込まれた中、まじめに考えるのは当然の責任だ。経営者に批判ができない翼賛体制の労働組合であってはならない。記事の掲載は、JR総連やJR東労組、そして私を落としこめるものだ。故に記事はでっち上げで、卑劣で、低劣だ。「警察情報が正しい」など、冤罪がはびこる世の中ではとんでもない。その警察情報を垂れ流すことは正義でない。

悪質で反民主主義的な報道の姿勢を拒否する判決姿勢は一定の評価をする。労働組合の責任を一生懸命果たしている我々の動きを封じ込めるような権力の野望があるなか、それに立脚した「報道の自由」などありえず、唾棄すべき。今回、名誉毀損を裁判所が認めたことはJR総連やJR東労組、JR西労、JR東海労、そして闘う仲間にとっての勝利だ。

一方で労働者の良心が踏みじられていることを許すわけにはいかないし、JR西労やJR東海労などまじめに闘う労働組合への弾圧を許し協力してきた「御用組合」を許すことはできない。そのような御用組合に対する闘いを、さらに進めていくことは私たちの基本だ。「憲法改正を大いにやるべき」と言った者に誰が反対したのか。JR総連しかない。攻撃されても、私たちは闘う意志と団結力において前進している。これから控訴して闘う。長い闘いになると思う。浦和や東海労のみんなとも、これからも闘っていきたい。

	松崎 明 氏	JR総連・JR東労組・梁次邦夫氏
訴えの内容	2006年10月19日 1億1,000万円の賠償と謝罪 広告掲載	2006年8月29日 4,400万円の賠償と謝罪広告掲 載料(3,019万5千円相当)
東京地裁判決	2009年10月26日 講談社と西岡記者は松崎氏に 550万円を支払えと命令	2010年2月23日 講談社と西岡記者はJR総連と JR東労組に220万円ずつ支払 えと命令
東京高裁判決	2010年10月27日 講談社と西岡記者は松崎氏に 330万円を支払えと命令	2011年1月27日 控訴棄却
最高裁判決	2012年3月27日 上告棄却	2012年3月27日 上告棄却

